



研究所たより



事務局体制が一新したのに合わせて、会員名簿の更新作業を行っています。前回の更新が1997年度ですから、4年近く会員名簿の更新が行われていませんでした。前号の所報と一緒に変更確認の資料をお送りしています。すでに沢山の方からの変更ハガキが届いていますが、**変更が全くない方も、無記入で結構ですのでハガキをご返送ください。** お願いいたします。

ところで、4年の間に私たちの生活の中で大きく変わった事項として、インターネットとパソコンの普及があります。今回の名簿更新にあたって、住所・電話等と共にeメールのアドレスを伺ったところ、かなりの割合で、会員の皆さんがeメールアドレスをお持ちのことがわかりました。

すでにこれまでも、研究所の活動の中では、会員間、また会員と研究所の相互交流や情報交換の手段としてeメールが活用されてきました。特に、数年前に始まった「協同総研メーリングリスト」は、日頃、なかなか研究所の活動に参加できない会員の方々の交流の場となってきました。今回、名簿更新にあわせて、メーリングリストへの新規参加者を募ったところ40人ほどの方が新規に参加を希望され、合計で参加者は約110人になりました。

メーリングリストとは、例えばある人が協同総研メーリングリストへ送ったメールが、そこに参加している110人全員に転送されるシステムです。多くの人に知ってもらいたい情報(集会・イベント・要請など)を発信したり、逆に自分の求める情報を、多数の人に

問い合わせる、また、ある問題についての意見交換を行う、といった使い方をするとき、大きな力を発揮します。確かに「自分と直接関係のないメールが送られてくるのは迷惑だ」と考える人もいますが、最近のパソコンの性能の向上(ハードディスクの容量の増大)や通信環境の向上(つなぎ放題サービスやブロードバンドなど)を考えれば、技術的にはあまり気にならなくなってきているのではないのでしょうか。むしろ最近ではコンピューターウイルスなどの方が気になる方もいるかも知れません(先日もウイルス騒ぎがありました)。しかし、そのようなリスクを差し引いてもなお、メーリングリストには大きな意義があります。

協同総研のメーリングリストは、協同組合やその周辺の方に参加してもらっています(会員に限ってはいません)。日本の協同組合運動はどうしても狭い自分たちの組織内にもってしまいがちな印象があります。協同組合運動の実践者と研究者、応援者をつなぐ「場」にこのメーリングリストがなりうるのではないか、と思います。IT技術を過信するわけではありませんが、協同総研のようなスタイルの研究所では、IT技術を上手く使いこなして、全国の全世界の実践者や研究者と連帯していくことがふさわしいのではないのでしょうか?

当面、研究所の会員拡大と同時にメーリングリストの参加者を増やしより活性化した「場」として育てていくため、研究所からもより積極的に情報発信をしていきたいと思えます。会員の皆さんのご参加をお待ちしています。(菊地 謙)